



*The Christian Science Journal*, April 2011

## メリー・ベーカー・エディの模範に啓発された人生

### Lives inspired by Mary Baker Eddy's example

2011年シリーズより

## 研究とインスピレーション

### Study and inspiration

Stephen R. Howard / スティーブン・R・ハワード

母教会の記録文書資料部で働き始めたとき、私はメリー・ベーカー・エディの生涯とその業績を研究する中で出会った歴史資料から、自分がどれほど多大な影響を受けることになるか、予想もしていませんでした。文書資料は、エディ夫人の高潔さとキリスト教精神に満ち満ちていました。

この**キリスト教科学**の指導者は、弟子たちに課した以上に、自分自身に対し厳格な規律を課していました。彼女には、二重基準などというものはありませんでした。つまり、彼女は、他人が働いているとき楽をすることなく、厳しい事態の前に責務を放棄することなく、滅びる心の暗示で臉が重くなることも許さず、自らを神性の法則に従わせる断固たる決意のもとにありました。生涯を通じて貫かれたその高潔さに、今なお、私は啓発されています。

*Author's name: Stephen R. Howard*

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.christian-science-sakigake.com>

© 2011 The Christian Science Publishing Society (CSPS)

この記事は、100部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙に転載する許可を得るには、[copyright@cspss.com](mailto:copyright@cspss.com)宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

記録文書資料部で働き始めて1年ほど経ったある金曜日の晩、私は、激しい腹痛に襲われました。献身的なキリスト教科学実践士が私のために祈り、霊的に支えてくださいましたが、日曜の明け方、痛みは耐えがたく感じられました。そのとき、私は、エディ夫人が**キリスト教科学**の大目的を樹立するために、どれほどの犠牲を払ったか、迫害、窮乏、肉体的苦痛に抵抗するために、霊的力に頼ったかについて考え始めたのです。そのような彼女の無私の不屈の忍耐力を考えるなら、私もあと1時間、祈りに捧げられるはずではないかと自問しました。そして、私は祈りました。1時間経つと、またもう1時間、祈りに専念し、そしてまた、と続けたのです。

午後早々、痛みは消えてしまいました。私は癒されたのです。やせ我慢ではありません。意思の力が癒すことはないのです。むしろ私はこの時間を、**神**の全能の善意が、肉体のあらゆる苦情を無効にすることを、より良く理解するために費やしていたのです。

仕事を通じて史的文書に親しむにつれ、エディ夫人が書簡の中で、許すこと、謙虚さ、喜びなどのキリスト教の資質を、非常に頻繁に強調していることに気づき、驚きました。実は、なにか事態に対処するとき、彼女は、形而上学的な論文を書いていたのではないかと、思っていたのですが、彼女はむしろ、キリスト的美徳を更に一貫して生きることを繰り返して求めていたことを知りました。もちろん、書簡には形而上学的な指示も含まれています。しかし、彼女が忍耐や自制といった資質をこれほど強調しているということは、これらの美徳は、彼女が形而上学を実際に生きていたことの明白な現れであって、それが惨めな状況を、霊的再生と進歩に変える適性であることを示してくれました。

Author's name: Stephen R. Howard

© 2011 The Christian Science Publishing Society (CSPS)

この記事は、100部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙の出版物に転載する許可を得るには、copyright@cspss.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

エディ夫人のキリスト教信仰の中核は、**キリスト**を通して得る完全な救い、肉体的、また道徳的な救いです。彼女の妥協を許さない一神論は、人間の心が、実行することも、癒し手であることも拒否して、実証は、神性の**心**に基づくものであるとしています。彼女は『**科学と健康**—付聖書の鍵』に「**真理**が働きをするのである、そこで、あなたは自分の実証する神性**原理**を理解し、またその**原理**に従わなければならない」(p. 456)と書いています。

この文は、私が、癒しの責任は、神性**原理**ではなく、自分自身にあるという考えの誘惑にかかりそうになったとき、気付かせてくれ、けん責してくれるのです。腕を複雑骨折したとき、このことが明白に示されました。ギブスを外してくれた整形外科医に、今後、腕を正常に動かせなくなるので、理学療法を開始するよう告げられました。

しかし、私は祈りによる癒しを求めました。イエスの言葉、「あなたがたは…真理を知るのであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」(ヨハネ 8:32)、に注目しました。イエスは、あなたが**真理**を知ることが、あなたを自由にするのではなく、**真理**そのものが、あなたを自由にすると言っているのだと考えました。私がなすべきことは、生ける**真理**との関係をもっと現実のものとして受け入れることであって、私が知ることでなく、**真理**が癒すのだということを認識しました。これに目覚めて間もなく、そして、ギブスを外した1週間後、痛めた骨のあたりでパチンと大きな音がしました。すると、腕がまっすぐになり、それ以来ずっと腕は正常で、自由に使っています。

これらの史料を学んで、私は、**キリスト教科学**の実践士の努めは、誰かが霊的助けを求め

Author's name: Stephen R. Howard

てくるのを待っているものではないことを知りました。むしろ、日々の経験が、**キリスト教科学**の実証を促す実験室なのです。どんな人間生活の細部も、**神**の支配下に置かれることから逃れることはできないのです。

高潔さ、キリスト教精神、一神論、そして、生活の細部においてまで**キリスト教科学**の実証を自らに課したことが、メリー・ベーカー・エディの精神の純粋さと強さの証拠であり、それが、彼女に、**神**に与えられた無比の使命の達成を可能にしたのです。これらの資質は、エディ夫人の出版物の記述に浸透していますが、未出版の著作の中にも、非常に頻繁に示されており、これが公私にわたり彼女の一貫した思考であったことを示され、私は、これらの資質について、さらに深く考えるようになりました。私は、今なお、このことに感謝しています。

スティーブン・R・ハワードは、マサチューセッツ州、チェスナットヒルにある *Longyear Museum* の主任学芸員を務め、元母教会上級記録文書係であった。ハワード氏は、日本に通算8年住み、最初は学生として、後には日本企業で働き、また東京教会の会員であった。

Author's name: Stephen R. Howard

© 2011 The Christian Science Publishing Society (CSPS)

この記事は、100部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事メール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@cspcs.com 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。